

くらしを支える土浦用水

つくば市立桜南小学校 6年 池浦美野里

土浦用水が必要とされたわけ

桜川第一揚水機場の敷地に用水路建設の経緯が刻まれた記念碑があります。

要旨



「本土地改良区の区域は、筑波山南方の桜川西岸の台地に散在する耕地、および花室川、乙戸川、小野川、東西谷田新川、藤沼川沿岸の谷津田の2,383haと、さらに畑1,590haにおよぶ。

これらの耕地の用水源は小川やため池に依存していたが、これらの利用率は低く、大部分は天水(雨)に頼っていた。そのため干害がひどかった。

そこで水源を水量豊かな霞ヶ浦水系に求めた。用水を完全に確保することで土地の生産性増大と労働力の省力化をはかり、農村を発展させることを目的とした。

この県営土浦水利事業は昭和27年に着手され、昭和43年に完了した。」

下広岡地区の水田



4月



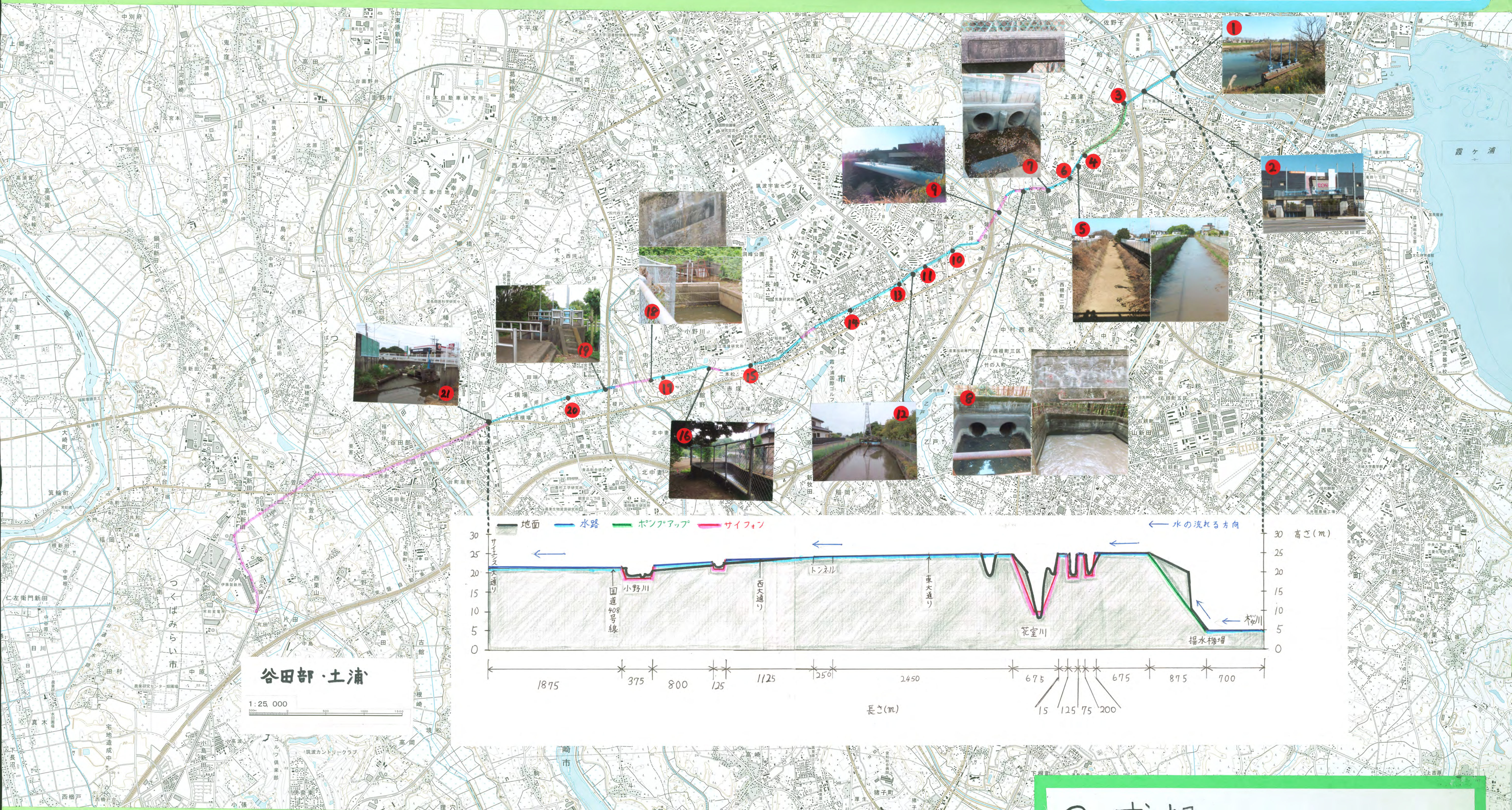
1. 調査のきっかけ

つくば市の下広岡地区には、「土浦用水」という農業用水路があります。水田に水を引く季節には、水がたくさん流れています。この用水路の水がどこから流れてきて、どこまで流れていくのか、調べようと思いました。

そこで、去年の冬から春、夏と、できる限りの範囲で用水路沿いに自転車で走り、用水路の様子を記録しました。



8月



写真の説明

① 桜川取水口水門	② 水門(揚水機場前)	③ 桜川第一揚水機場
④ 用水ポンプアップ出口	⑤ ポンプアップ出口へ用水路	⑥ 橋上の用水路名碑
⑦ 第二号サイフォン(入り)	⑧ 下広岡サイフォン(入り口)	⑨ 花室川横断管(サイフ)
⑩ 盛り土部分の用水路(水田より水路が低い)	⑪ 用水路とゴミよりフェンス	⑫ 分水口(左が谷田部)
⑬ 東大通り交差部分	⑭ 住宅地境内の水路と水門	⑮ 西大通り交差部分
⑯ 低い所をサイフォンでくぐらせる	⑰ 用水路(小野川付近)	⑱ 小野川サイフォン(入り口)
⑲ 沈砂槽取水門	⑳ 農地流れる用水路	㉑ サイフォン入り口(調整鉄柱)

2. 分かったこと

まず地図を頼りに水路をたどると、用水の入り口が桜川にあることが分かりました。そこから用水路はイオン土浦店の下を通り、土浦市上高津の桜川第一揚水機場へつながっていました。

地図を見ると、揚水機場から水路は地中に入り土浦市天川で地上に出ています。天川の用水路出口には、トンネル状の大きな穴が2つありました。

25000分の1地図では、桜川の取水口から桜川第一揚水機場は海拔0~5m、そして天川の用水路出口は海拔20~25mとなっています。揚水機場は、低い場所から高い場所へ水をくみ上げる施設であることが分かりました。

春、夏を通して、水は用水路を流れます。水は、土浦市天川~つくば市下広岡~大角豆~並木~梅園~稲荷前~小野川~上横場へと流れて行くことが分かりました。

地図では上横場から用水路は地下に入り、谷田部を通り、つくばみらい市坂野新田辺りで終わっています。

3. 感想

大きな水源がない土地で、農家の人々の暮らしはとても苦しかったらと思います。およそ15キロもあるこの用水路を引くには、14年という長い時間がかかりました。その間、たくさんの人手も必要だったと思います。それだけに用水路が完成した時は、みんなとても喜んだと思います。

水路を見学しているときに用水路を管理している方々に出会いました。周りの草を刈ったり、水路のゴミを回収したり、一所懸命作業されていました。用水路の水は今も田畑の大切な水として活用されています。秋にはたくさんの稲の実りが見られます。

土浦用水が農家の方々だけでなく、私たちの暮らしも支えているのだと感じました。